

1 荒川区立図書館案内

(1) 所在案内図

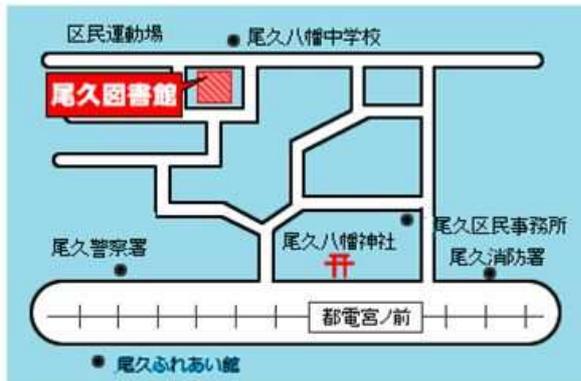
ゆいの森あらかわ（中央図書館）



南千住図書館



尾久図書館



町屋図書館



日暮里図書館



汐入図書サービスステーション



冠新道図書サービスステーション

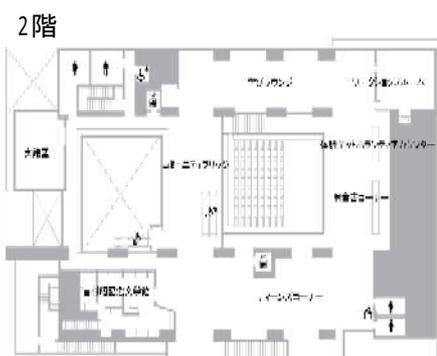


ゆいの森あらかわ （中央図書館）	荒川2-50-1 ☎ 03-3891-4349
南千住図書館	南千住6-63-1 ☎ 03-3807-9221
尾久図書館	西尾久3-12-12 ☎ 03-3800-5821
町屋図書館	町屋5-11-18 ☎ 03-3892-9821
日暮里図書館	東日暮里6-38-4 ☎ 03-3803-1645
汐入図書サービス ステーション	南千住8-12-5-114 べるばーと汐入東館1F ☎ 03-3807-8130
冠新道図書サービス ステーション	西日暮里6-25-14 ☎ 03-3800-3321

(2) 各図書館の施設概要(令和2年3月31日現在)

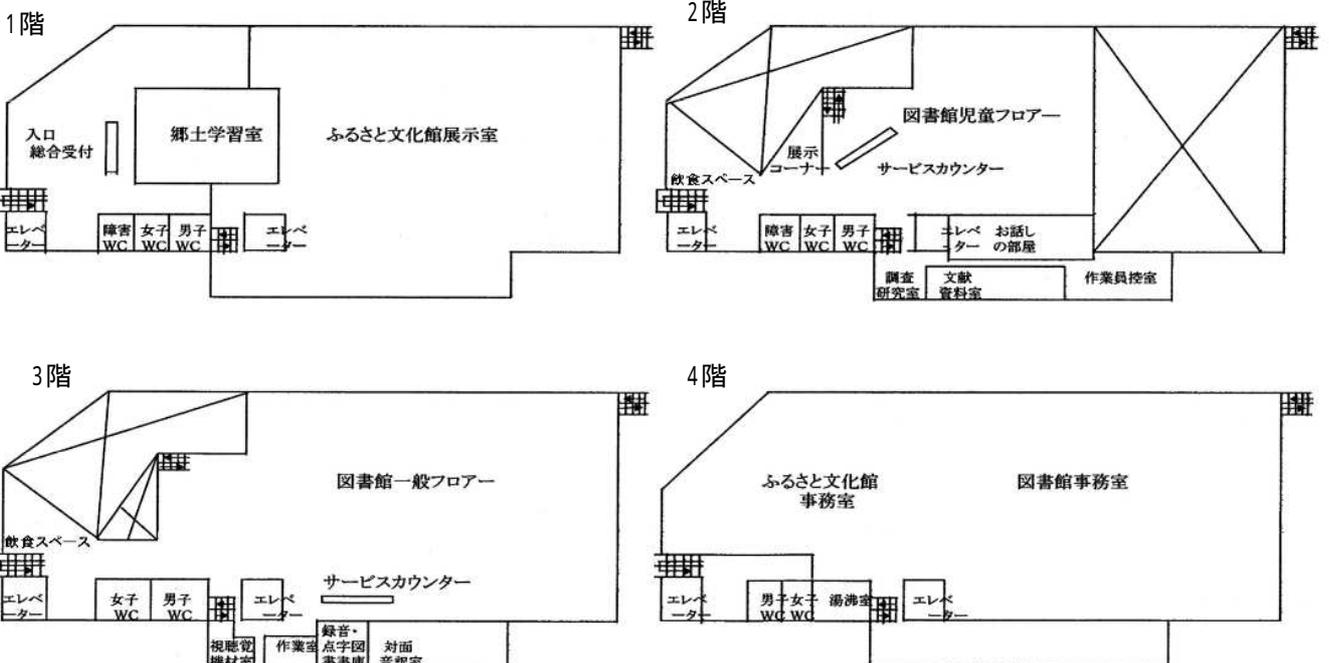
ア ゆいの森あらかわ(中央図書館)

所在地	荒川区荒川2-50-1	電話	03-3891-4349
開設年月日	平成29年3月26日	FAX	03-3891-4350
敷地面積	4,110.88㎡	建物	鉄筋コンクリート造 地上5階、地下1階 延床面積10,943.74㎡
交通機関	都電荒川線(東京さくらトラム)荒川二丁目(ゆいの森あらかわ前)停留場下車徒歩1分 東京メトロ千代田線町屋駅・京成上野線町屋駅下車徒歩8分 コミュニティバス「さくら」ゆいの森あらかわ停留所下車((土)・(日)・(祝)のみ運行)		
併設	吉村昭記念文学館(2階、3階)、ゆいの森子どもひろば(1階、2階)		
設備	点字ブロック、自動ドア、エレベータ、エスカレータ、多目的トイレ、対面音訳室、録音室、ベビーステーション、託児室、AED、発電機、備蓄倉庫		
座席数	933席(予約が必要な研究席(4階)、学習席(5階)を含む)		
無線LAN	ノートPC4台 全館無線LAN(FREE Wi-Fi)		
職員数	83名		
所蔵資料	一般書	276,355冊	CD 11,490点
	児童書	61,240冊	DVD 1,681点
	地域行政資料	26,682冊	学校教育用ビデオDVD 70点
	HS資料	3,583冊	視聴覚資料計 13,241点
	雑誌	21,678誌	
	新聞	48紙	
	蔵書冊数	389,538冊	
利用状況	令和元年度個人登録者数	28,740人	令和元年度入館者数 697,418人
	令和元年度貸出利用者数	191,372人	令和元年度総個人貸出点数 727,666点
特色	約60万冊の蔵書規模を有する区の中央図書館・吉村昭記念文学館・ゆいの森子どもひろばが一体となった、あらゆる世代が活用できる施設です。利用者が自ら学び、体験し、人と人が交流できる、地域の文化やコミュニティの拠点づくりを目指します。また、災害時には、妊産婦や乳児を中心とした避難所として活用できるよう、免震構造を採用し、発電機や備蓄倉庫を備えています。		



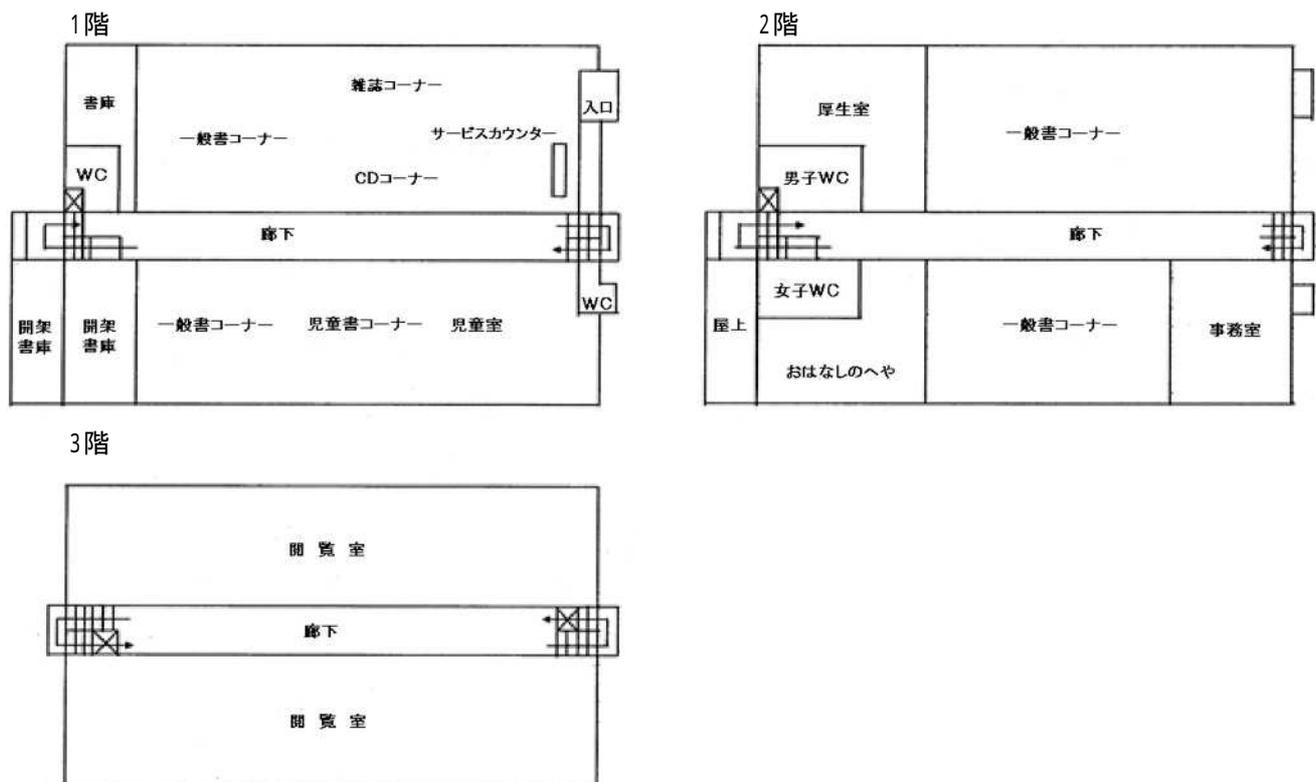
イ 南千住図書館

所在地	荒川区南千住6-63-1	電話	03-3807-9221
開設年月日	平成10年5月1日	FAX	03-3803-7744
敷地面積	2,723.96㎡	建物	鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)地上4階、地下1階、 塔屋のうち2階、3階、4階部分 延床面積2,686.10㎡、建物合計5,270.69㎡ (荒川ふるさと文化館延床面積2,584.59㎡)
交通機関	JR常磐線南千住駅・東京メトロ日比谷線南千住駅・つくばエクスプレス南千住駅下車徒歩10分 東京メトロ日比谷線三輪駅・都電荒川線三輪橋停留場下車徒歩15分 コミュニティバス「さくら」南千住図書館停留所下車徒歩2分 都バス千住大橋停留所下車徒歩2分 京成上野線千住大橋駅下車徒歩10分		
併設	荒川ふるさと文化館		
設備	点字ブロック、自動ドア、エレベータ、多目的トイレ、対面音訳室、防音室、ベビーステーション、AED		
座席数	146		
無線LAN	ノートPC3台 全館無線LAN(FREE Wi-Fi)		
職員数	33名(汐入図書サービスステーション含む)		
所蔵資料	一般書	96,922冊	CD 12,677点
	児童書	32,203冊	カセットテープ 1,816点
	地域行政資料	5,395冊	ビデオテープ 1,269点
	HS資料	65冊	DVD 1,802点
	雑誌	7,642冊	16ミリフィルム 934本
	新聞	11紙	学校教育用ビデオDVD 53点
	蔵書冊数	142,227冊	視聴覚資料計 18,551点
			映写機 8台
利用状況	令和元年度個人登録者数	17,173人	令和元年度入館者数 259,200人
	令和元年度貸出利用者数	89,234人	令和元年度総個人貸出点数 344,690点
特色	区立図書館の中央館機能をゆいの森あらかわに移管した後も、28万冊の蔵書を収蔵可能な中規模館として運営しています。荒川区の歴史・文化を楽しみながら学び、探究できる荒川ふるさと文化館と共同した取組みを実施するとともに、「俳句のまち あらかわ」にちなんだ奥の細道に関連するコーナーを設置しています。		



ウ 尾久図書館

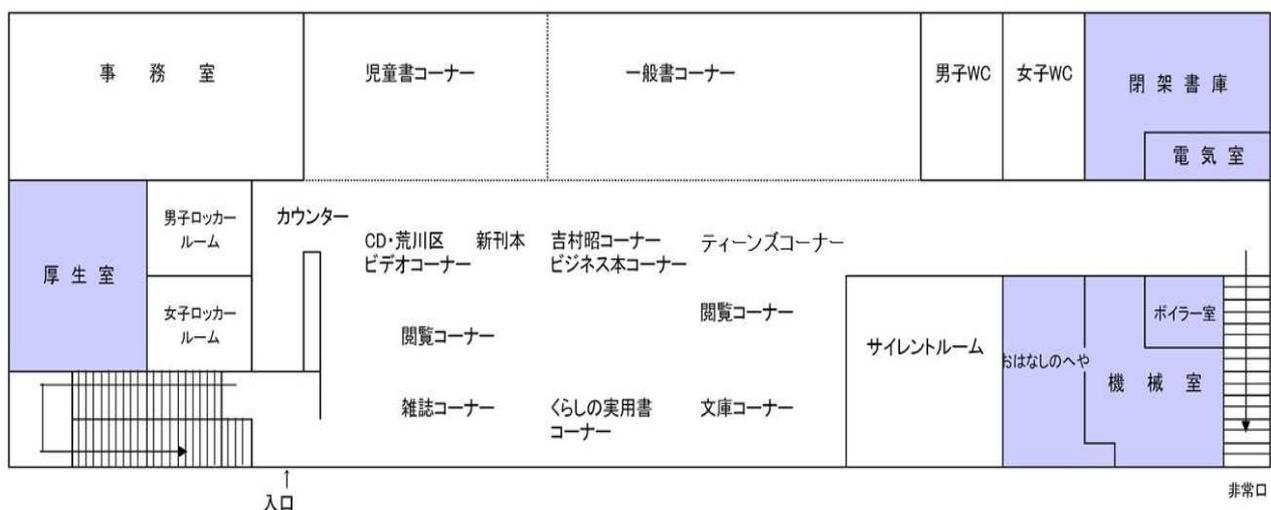
所在地	荒川区西尾久3-12-12	電話	03-3800-5821
開設年月日	昭和46年9月23日	FAX	03-3800-5822
敷地面積	1,328.94㎡	建物	鉄筋コンクリート3階建 延床面積1,201.82㎡
交通機関	都電荒川線宮ノ前停留場下車徒歩10分 都バス西尾久三丁目停留所下車徒歩10分		
併設	なし		
設備	スロープ、点字ブロック、自動ドア、多目的トイレ、ベビーステーション、AED		
座席数	135		
無線LAN	ノートPC2台 全館無線LAN(FREE Wi-Fi)		
職員数	17名		
所蔵資料	一般書	77,930 冊	C D
	児童書	22,328 冊	視聴覚資料計
	地域行政資料	1,708 冊	6,294 点
	HS資料	30 冊	6,294 点
	雑誌	6,946 冊	
	新聞	11 紙	
	蔵書冊数	108,942 冊	
利用状況	令和元年度個人登録者数	7,997 人	令和元年度入館者数
	令和元年度貸出利用者数	50,895 人	令和元年度総個人貸出点数
124,245 人			199,534 点
特色	<p>区の北西部に位置し、尾久八幡神社や東京女子医大東医療センターに近く、閑静な住宅街の中にあり、小庭園もあって緑に囲まれた環境にあります。自然科学、医療、言語、海外文学などの図書を多く所蔵しています。3階の独立した学習室は、窓を大きくとってあり、開放的で人気があります。</p> <p>なお、尾久図書館については、現在、尾久地域に整備を進めている宮前公園の中に、地域のシンボルとなるような建物として令和2年度に移設・開館予定です。</p>		



工 町屋図書館

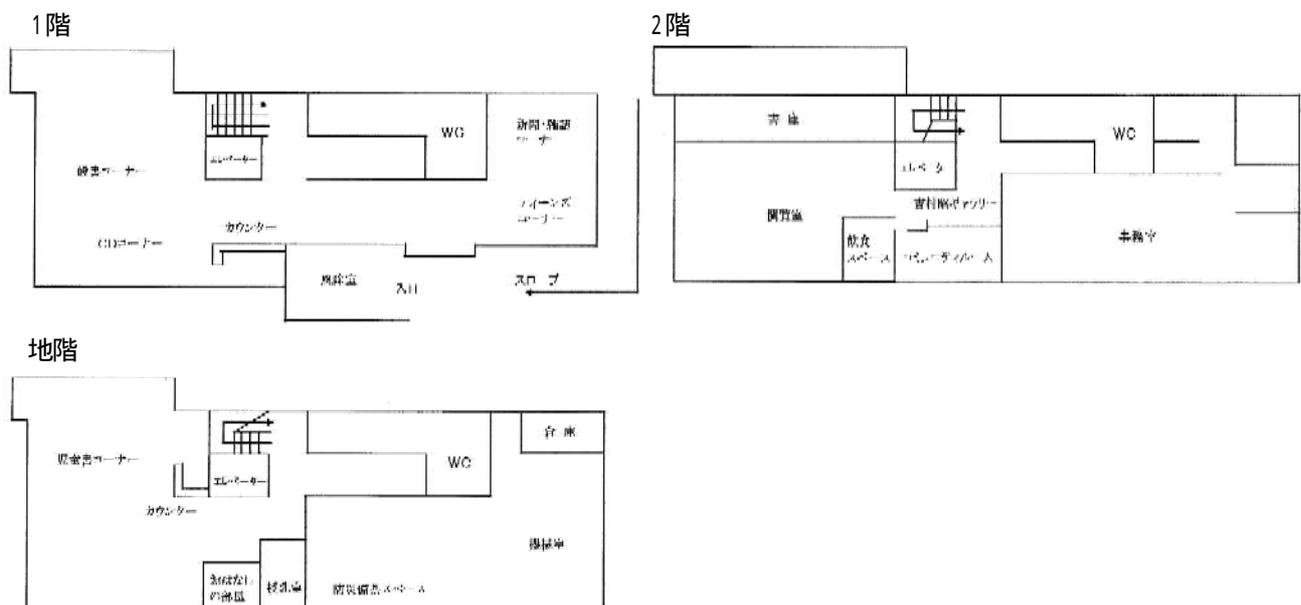
所在地	荒川区町屋5-11-18	電話	03-3892-9821	
開設年月日	昭和51年10月1日	FAX	03-3892-9822	
敷地面積	都営住宅敷地内	建物	鉄筋コンクリート3階建内2階部分 延床面積1,045.44㎡	
交通機関	東京メトロ千代田線町屋駅・京成本線町屋駅下車徒歩20分 都電荒川線町屋駅前停留場下車徒歩20分 都バス原中学校入口停留所下車徒歩3分			
併設	原保育園、都営住宅			
設備	スロープ、車椅子昇降機、呼び出し用チャイム、ベビーステーション、AED			
座席数	95			
無線LAN	ノートPC2台 全館無線LAN(FREE Wi-Fi)			
職員数	14名			
所蔵資料	一般書	84,970 冊	C D	7,616 点
	児童書	25,592 冊	視聴覚資料計	7,616 点
	地域行政資料	1,729 冊		
	HS資料	22 冊		
	雑誌	7,916 冊		
	新聞	11 紙		
	蔵書冊数	120,229 冊		
利用状況	令和元年度個人登録者数	6,695 人	令和元年度入館者数	101,620 人
	令和元年度貸出利用者数	40,600 人	令和元年度総個人貸出点数	154,691 点
特色	都営住宅の2階において開館。階下には原保育園、前には原中学校、隣には公園、近くには隅田川・都立尾久の原公園・東京都立大学健康福祉学部があります。保育園・中学校と連携し、立地を生かした取り組みを進めています。 ワンフロアで明るく、文庫本、技術、環境、産業、日本文学などの図書を多く所蔵しています。			

2階



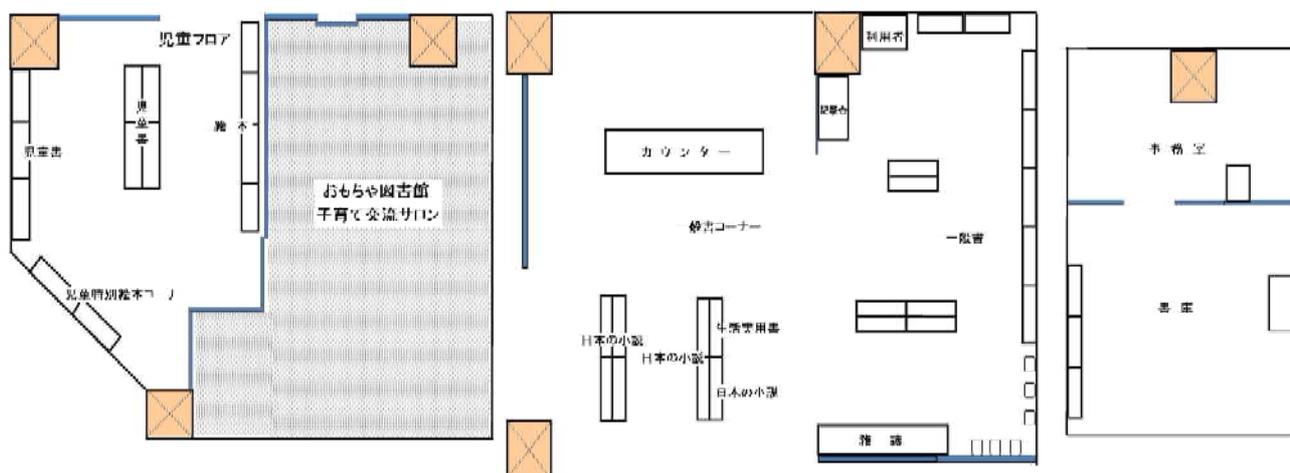
オ 日暮里図書館

所在地	荒川区東日暮里6-38-4	電話	03-3803-1645
開設年月日	昭和54年6月11日	FAX	03-3803-1646
敷地面積	893.92㎡	建物	鉄筋コンクリート地上2階地下1階建 延床面積1,369.66㎡
交通機関	JR 山手線・常磐線・京浜東北線、京成本線、日暮里舎人ライナー 日暮里駅下車徒歩10分 JR 常磐線三河島駅下車徒歩8分 都バス大下停留所下車徒歩7分		
併設	なし		
設備	スロープ、点字ブロック、自動ドア、エレベータ、多目的トイレ、ベビーステーション、コミュニティルーム、飲食スペース、AED		
座席数	131		
無線LAN	ノートPC2台 全館無線LAN(FREE Wi-Fi)		
職員数	20名(冠新道図書サービスステーション含む)		
所蔵資料	一般書	61,155冊	CD 5,530点
	児童書	26,832冊	視聴覚資料計 5,530点
	地域行政資料	2,279冊	
	HS資料	55冊	
	雑誌	6,263冊	
	新聞	11紙	
	蔵書冊数	96,584冊	
利用状況	令和元年度個人登録者数	11,371人	令和元年度入館者数 218,893人
	令和元年度貸出利用者数	82,892人	令和元年度総個人貸出点数 291,540点
特色	<p>学生や仕事帰りの方によく利用されています。経済、民俗、ハングル図書などを多く所蔵しています。2階には、荒川区出身で区民栄誉賞を受賞した作家・吉村昭氏の著作や写真、自筆原稿などを展示した「吉村昭ギャラリー」があります。児童室の窓の外には、日暮里ゆかりの童話「夕やけこやけ」の世界が描かれた壁画があります。平成25年6月には、天皇陛下の行幸を賜り、吉村氏の震災関連の資料展示をご覧いただきました。平成29年度には大規模改修を行い、平成30年4月21日にリニューアルオープンしました。</p>		



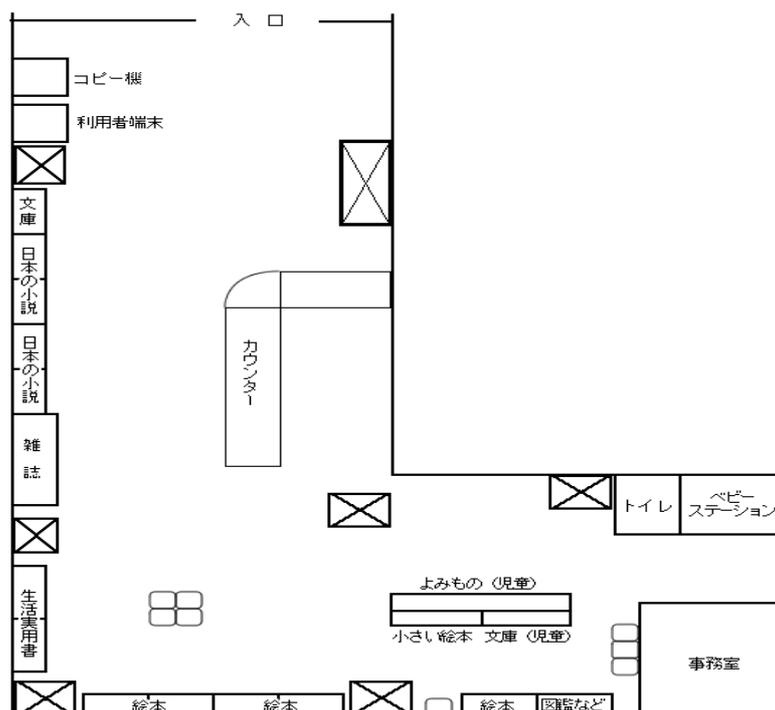
カ 汐入図書サービスステーション

所在地	荒川区南千住8-12-5 - 114 べるぼーと汐入東館1F		電話	03-3807-8130
開設年月日	平成19年9月8日 (平成22年12月18日拡張) (平成25年10月1日拡充)		FAX	03-3807-8130
			建物	鉄筋コンクリート造地上3階地下1階のうち1階 延床面積124.07㎡ (既存部分68.85㎡、拡張部分25.32㎡、 拡充部分29.90㎡)
敷地面積	べるぼーと汐入東館内			
交通機関	JR常磐線南千住駅・東京メトロ日比谷線南千住駅・つくばエクスプレス南千住駅下車徒歩15分 都バス南千住汐入・はなみずき通り中央停留所下車徒歩2分 京成上野線京成関屋駅・東武伊勢崎線牛田駅下車徒歩10分			
併設	なし			
設備	なし			
座席数	9			
無線LAN	なし			
職員数	南千住図書館に含む			
所蔵資料	一般書	7,726冊	CD	0点
	児童書	5,588冊	視聴覚資料計	0点
	地域行政資料	150冊		
	HS資料	0冊		
	雑誌	389冊		
	新聞	0紙		
	蔵書冊数	13,853冊		
利用状況	令和元年度個人登録者数	4,341人	令和元年度入館者数	148,029人
	令和元年度貸出利用者数	55,275人	令和元年度総個人貸出点数	169,035点
特色	<p>南千住図書館から遠い汐入地域の区民に対する図書館サービスの充実と、急増する子育て世代の教育環境の整備のために、べるぼーと汐入商店街振興組合の空き店舗を借りて、南千住図書館の分室として運営しています。</p> <p>絵本や実用書、小説が主体の小規模な分室ですが、区内の図書館の資料を取り寄せ、ここで借りて、ここに返すことができます。拡張した児童フロアは、荒川区社会福祉協議会が運営する「汐入おもちゃ図書館・子育て交流サロン」と隣接しています。</p>			



キ 冠新道図書サービスステーション

所在地	荒川区西日暮里6-25-14	電話	03-3800-3321
開設年月日	平成21年11月14日	FAX	03-3800-3321
敷地面積	マンション兼店舗ビル内	建物	鉄筋コンクリート造地上6階のうち1階 延床面積181.44㎡
交通機関	JR 山手線・京浜東北線西日暮里駅・東京メトロ千代田線西日暮里駅下車徒歩15分 都バス西日暮里六丁目・新三河島停留所下車徒歩2分 京成上野線新三河島駅下車徒歩5分 日暮里舎人ライナー西日暮里駅下車徒歩12分		
併設	なし		
設備	スロープ、自動ドア、ベビーステーション、AED、多目的トイレ		
座席数	11		
無線LAN	なし		
職員数	日暮里図書館に含む		
所蔵資料	一般書	5,601 冊	CD 0 点
	児童書	4,927 冊	視聴覚資料計 0 点
	地域行政資料	113 冊	
	HS資料	0 冊	
	雑誌	474 冊	
	新聞	0 紙	
	蔵書冊数	11,115 冊	
利用状況	令和元年度個人登録者数	2,189 人	令和元年度入館者数 59,070 人
	令和元年度貸出利用者数	30,168 人	令和元年度総個人貸出点数 99,296 点
特色	<p>日暮里図書館から遠い西日暮里地域の区民に対する図書館サービスの充実のために、冠新道商興会に面するマンション兼店舗1階の一室を借りて、日暮里図書館の分室として運営しています。</p> <p>絵本や実用書主体の小規模な分室ですが、区内の図書館の資料を取り寄せ、ここで借りて、ここに返すことができます。ベビーステーションを設置し、子ども連れの利用にも便利なため、多くの親子連れの方にご利用いただいています。</p>		



(3) 図書館施設の充実に向けて

ア 新たな尾久図書館の建設

新たな尾久図書館は、令和2年度中の開館を目指し、宮前公園から図書館内に気軽に立ち寄れる滞在型の図書館として整備を進めています。

館内には全世代が集える「ひろば」を整備し、新しい本や様々な人と出会う「世代間の交流」を推進します。

コンセプト

- ・日常的に利用できる身近な図書館
尾久の特色を活かしつつ、日常的に利用できる身近な図書館を目指します。
- ・地域における生涯学習活動の拠点
地域に関する資料、荒川区や地域にゆかりのある文学作品・文化芸術の選定・収集
- ・地域内の小・中学校、幼稚園、保育園、ひろば館、ふれあい館、高齢者施設等との連携・交流の拠点
子どもから高齢者まであらゆる区民の方が読書に親しめる機会の提供及びネットワークの充実
- ・地域交流や情報収集・発信の拠点
区役所各部課と連携した取組の提供や、図書館ボランティアをはじめとする地域活動拠点

主な特徴

- ・四季折々の花々を眺めながら読書のできる「テラス席」や館内からも公園北側のローズガーデンを一望できる「展望席」を設け、お気に入りの席で読書を楽しむことができます。
- ・散歩途中でもふらっと立ち寄っていただけるように出入口を2か所設け、館内を通り抜けることも可能です。
- ・公園利用者もゆっくり休憩いただける「飲食スペース」を設けます。

(1)気軽に利用できる身近な図書館

- ・親子で読み聞かせや手遊びができるおはなしコーナーを設置
- ・座席数を約300席に倍増し、バラエティに富んだイスを配置
- ・赤ちゃんから高齢者まで快適に過ごすことができる空調(輻射式冷暖房)を導入

(2)交流の拠点

- ・自然観察会等、公園と連携したイベントができる多目的室を設置
- ・グループ学習室を新設
- ・ボランティア活動の拠点として整備

(3)バリアフリー

- ・多目的トイレを充実
- ・障がい者専用駐車場を新設
- ・対面音訳室を新設



新しい図書館ができる宮前公園は、西尾久と東尾久に位置する都市計画公園で、令和3年度の完成を目指しています。宮前公園は、防災公園としての性格を持ちつつ、既に開設済みの保育園に加え、テニスコートも併せて整備されることになっています。

スケジュール

令和2年度 建設工事・開館(予定)

イ ゆいの森あらかわ

平成29年3月26日に開館したゆいの森あらかわは、中央図書館・吉村昭記念文学館・ゆいの森子どもひろばが、一体となった、あらゆる世代が活用できる施設です。利用者が自ら学び、体験し、人と人とが交流できる、地域の文化やコミュニティの拠点づくりを目指します。

中央図書館機能

区の中央図書館と位置づけられる図書館は、約60万冊の蔵書規模の書架や900席を超える座席を備え、全ての世代の読書活動や課題解決の支援と、地域文化の情報発信の拠点とします。

- ・様々な課題解決を支援するレファレンスカウンターやビジネス支援カウンター、時事に沿った特集コーナー等の設置
- ・赤ちゃんから高齢者までだれもが楽しめる絵本館
- ・屋外テラス席や会話を楽しめるグループ席、静かに過ごせる緑陰読書席などの座席

吉村昭記念文学館機能

荒川区出身で「戦艦武蔵」や「三陸海岸大津波」、「ポーツマスの旗」などで著名な小説家、吉村昭氏(昭和2年～平成18年)を紹介する吉村昭記念文学館は、吉村文学の魅力を広く発信し、その精神を次代へと引き継ぐこと、また、吉村文学をきっかけとして区の文化の更なる振興へとつなげる場を目指しています。

- ・小説家として活躍した吉村氏の生涯と作品を中心に紹介するほか、主な作品の舞台や取材地、作品に描かれたふるさと荒川区、妻であり作家の津村節子氏の文学世界等を紹介
- ・吉村氏の書斎を再現し、作品執筆の臨場感を演出
- ・紹介映像等の閲覧、展示解説等の実施
- ・企画展示室は、館全体の展示等のスペースとしても活用

ゆいの森子どもひろば機能

乳幼児向けの遊び場と小・中学生の居場所を中心に、子育て世代のコミュニティの場の提供や科学実験やワークショップ等を通じて子どもたちの夢や生きる力を育みます。

- ・「体験キット」や「ワークショップ」等で、遊びから学びへとつなげる多様な体験事業を小中学生に提供(体験事業例:星空学習、環境学習、科学実験)
- ・親子で利用できる乳幼児向けの室内遊び場や小中学生の安全な居場所を提供
- ・乳幼児を対象に時間単位の託児を実施

防災機能

災害時に妊産婦や乳児を中心とした避難所として活用します。

- ・乳児等の避難所対応に必要な備蓄品のほか発電機を準備
- ・平常時から避難訓練、避難所開設訓練等を実施
- ・発災直後からこころのケア等、様々な課題に沿った本の提供体制を準備

その他の機能

利便性の向上のため、その他様々なサービスを実施します。

- ・館内の本を持って入れるカフェ

- ・館内の全てのフロアに無線LANを完備
- ・インターネットで学習席やイベントを簡単予約
- ・新聞記事が検索できるデータベースの提供
- ・自動貸出機や読書履歴印刷機の設置

令和元年度のイベント

・ゆいの森ホール(ゆいの森あらかわ主催・共催)

4月28日	講演会「絵本 とくべつな一日、とくべつな路」
5月5日	おはなし会「これなんだろう？ どうなるのかな？ やなぎださんとえほんをたのしもう」
5月6日	えほんのコンサート 手づくり楽器ワークショップ + 体験型おはなし会
5月26日	映画上映会『いのちのかたち 画家・絵本作家 いせひでこ』
6月1日	春・夏の星座と宇宙の話
7月6日	公開シンポジウム「兜太俳句の晩年」
7月27日	音楽と絵本の世界
7月31日	ちょうちょに変身！ はらぺこあおむしおはなし会
8月8日	紙芝居デー
8月10日	切断ヴィーナストークショー
8月24日	子ども映画上映会(第1部・第2部)
9月14日	中秋の名月と宇宙の話
9月27日	大人のための音楽と絵本の世界
11月24日	おしどり文学館協定締結2周年記念講演会「吉村・津村文学の魅力」
12月21日	0歳から3歳のためのクリスマス会
12月21日	4歳から未就学児のためのクリスマス会
12月21日	小学生のためのクリスマス会
12月21日	クリスマス会上映会
1月5日	日本舞踊ショー
1月7日	正月遊びワークショップ
1月12日	ビブリオバトル
1月26日	冬の星座と宇宙の話
1月31日	第12回柳田邦男絵本大賞

・1階遊びラウンジ・おはなしの部屋等(子育て世代向け)

ゆいの森あらかわ1階遊びラウンジでは、未就学児とその保護者を対象に毎週金曜日、午前午後各回15分間の「親子あそびタイム」を開催しています。また、年5回程度、遊びタイムを発展させ、より多彩なプログラムで親子の触れ合いを充実させる「なかよしタイム」を開催しています。また、1階おはなしの部屋では、毎週水曜日、職員とボランティアによる「おはなし会」を開催しています。さらに、子育て世代の育児を支援するため、子育て講座を実施しています。

5月25日	なかよしタイム「しゃぼん玉で遊ぼう」
6月22日	子育て講座「育児相談」
7月14日	なかよしタイム「新聞紙で遊ぼう」

- 9月 1日 子育て講座「マタニティプログラム～胎児とのコミュニケーションの取り方～」
- 10月 1日 なかよしタイム「赤ちゃんのタッチセラピー」
- 11月 9日 子育て講座「子どもの叱り方・イヤイヤ期の接し方」
- 1月19日 子育て講座「子どものお困り行動についての対応法」
- 2月 1日 なかよしタイム「パパと遊ぼう」
- 15日 子育て講座「マタニティプログラム～赤ちゃんとの触れ合い方～」



親子あそびタイム

・2階ワークショップルーム、学びラウンジ等(小中学生向け)

ゆいの森あらかわでは、荒川区立の小学校(24校)の4年生を対象に「あらかわ環境・未来体験学習」として、宇宙や星座について学べる星空学習、遊び感覚で学べる体験キット、大きなデジタル地球儀を体験してもらいました。

・昨年に引き続き成人向けの講座として「園芸(上級)講座」を実施し、あいさつ広場の花壇でバラの栽培を始めました。

- 4月 5日 「春の星座と触れる地球」
- 6日 「寄席文字を学んでオリジナルデザインのノートを作ろう」
- 28日 「こいのぼりを作ろう」
- 5月12日 「母の日のフラワーデザインワークショップ」
- 18日 「額縁職人から金箔押しの技術を学んで写真立てを作ろう」
- 6月 1日 「春・夏の星座と宇宙の話」
- 8日 「園芸上級講座(第1回)」
- 9日 「北斗七星の模型を作ろう」
- 9日 「苔玉を作って大切な人に贈ろう」
- 22日 「園芸上級講座(第2回)」
- 7月13日 「うちわづくり」
- 13日 「園芸上級講座(第3回)」
- 8月10日 「園芸上級講座(第4回)」
- 11日 「豆苗栽培ワークショップ」
- 17日 「プラモデルワークショップ」
- 18日 「オリジナルの国旗をデザインしよう」
- 21日 「プログラムワークショップ」
- 25日 「夏休みこども学習サポート(ポスターをかこう)」
- 31日 「プラモデルワークショップ」
- 9月14日 「中秋の名月と宇宙の話」
- 14日 「園芸上級講座(第5回)」
- 15日 「結晶モビールを作ろう」
- 28日 「園芸上級講座(第6回)」
- 10月12日 「園芸上級講座(第7回)」
- 22日 「実験ワークショップ 空気の力」
- 26日 「園芸上級講座(第8回)」



影絵ワークショップ

- 11月16日 「園芸上級講座(第9回)」
- 17日 「学びラウンジフェス」
- 12月 8日 「園芸上級講座(第10回)」
- 14日 「門松の制作・飾り付け(成人講座)」
- 22日 「石版画を体験しよう」
- 26日 「ミニ門松を作ってお正月を迎えよう」
- 1月 7日 「昭和のお正月遊びを体験しよう」
- 26日 「冬の星座と宇宙の話」
- 26日 「望遠鏡の制作と観望会」
- 2月 8日 「園芸上級講座(第11回)」
- 8日 「園芸上級講座(第12回)」

令和元年度体験キット貸出件数

(単位:件)

体験キットの種類	貸出件数	体験キットの種類	貸出件数
明かりを灯そう	186	こまをまわそう	795
磁石に触れよう	788	植物を観察しよう	359
色を作ろう	588	昔の文字で遊ぼう	231
歯車を回そう	544	錯覚を体験しよう	361
静電気を作ろう	915	お弁当をつくろう	1,030
空気の力を知ろう	1047	荒川区を見てみよう	133
図形を作ってみよう	676	文字を組み合わせよう	149
幾何学模様を描こう	844	鏡の不思議	363
パズルに挑戦しよう	774	てことギア	330
熟語と対義語	164	世界の地図	703
原子と分子	198	合 計	11,178

令和元年度の企画展示

ゆいの森あらかわ3階企画展示室では、さまざまな展示を行いました。

- ・いせひでこ絵本原画展(4月22日～6月2日)。併せてギャラリートークを実施(5月26日)
- ・切断ヴィーナスと義足の展示(7月19日～9月16日)。併せてギャラリートークを実施(8月10日)
- ・吉村昭記念文学館 令和元年度企画展 吉村昭「海も暮れきる」 俳人、尾崎放哉を見つめて(10月13日～12月18日)。併せて文学館学芸員による展示解説も実施(11月13日、12月14日)

ウ 吉村昭記念文学館

吉村昭記念文学館は、吉村昭(昭和2年～平成18年)の功績を顕彰し、吉村文学を契機として幅広い文化領域と連携し、区の文化のさらなる振興へ寄与することを目指しています。

吉村昭記念文学館の目的

- ・吉村昭の功績を顕彰し、その作品世界を研究する
吉村文学に関する研究拠点として、関連資料の収集・保存・公開をはじめとする様々な活動を展開することにより、吉村の作品が、広く、永く、読み継がれることに貢献します。
- ・吉村文学に親しみ、文学を通して心を育む場を作る
様々なテーマを持つ吉村文学に親しむとともに、吉村文学を契機として更に広範な文学に親しみ、心を豊かにし、知的好奇心を満足させることができる空間を提供します。
- ・吉村文学を契機として、幅広い文化領域と連携し、荒川区における文化の醸成を図る
吉村文学を核として、広範な文化領域とも連携した事業を展開し、区民の文化活動の活性化と荒川区における文化の醸成に寄与します。
- ・吉村文学を育んだ荒川区の魅力を内外に発信する
日本各地はもとより海外にも及ぶ吉村文学の舞台。これらの地域や周辺地域と交流、連携を図りながら、小説家、吉村昭の功績とその作品世界、そして、吉村氏を育んだ荒川区の魅力を内外に紹介します。

フロアマップ



常設展示

・展示ゾーン

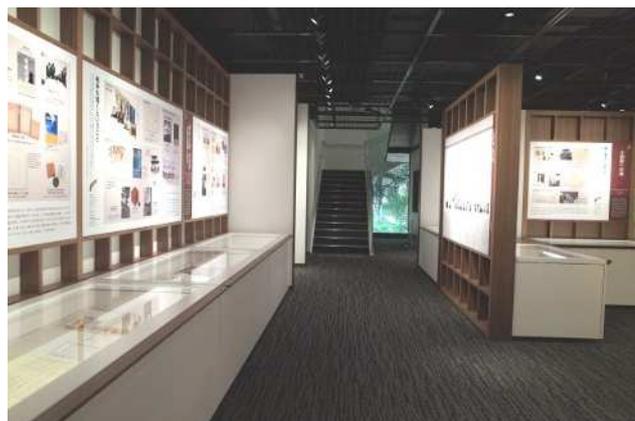
荒川区出身の小説家、吉村昭の生涯をさまざまな資料とともに紹介します。

吉村は、昭和2年5月1日、東京府北豊島郡日暮里町大字谷中本(現東京都荒川区東日暮里六丁目)に生まれました。そして、昭和20年4月13日の空襲で家が焼失するまでの18年間を荒川区で過ごしました。幼少の頃から、家族の死や戦争、そして、自らも死の危険を伴う肋骨切除の手術を経験します。時代が大きく変化する中で、こうした体験は、若い吉村の脳裏に深く刻み込まれ、小説家を志す動機となりました。

吉村は、「死とはなにか、生とはなにか」を主題に人間の本質を探究し、数多くの短篇・長篇の作品を執筆しました。常設展示では、自筆原稿、ノート、書簡、初出誌、著作、写真、愛用品などにより、吉村の作品世界や創作背景を紐解きます。



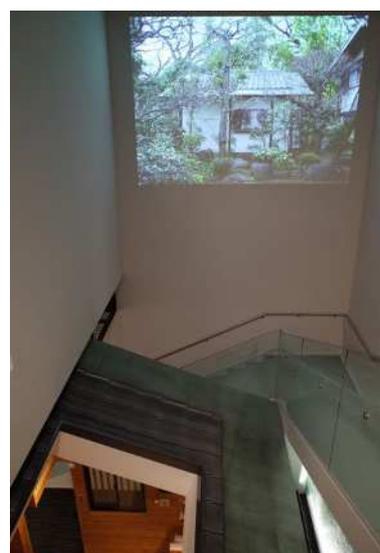
エントランス



常設展示室

・書斎再現展示

吉村が昭和53年から亡くなる平成18年まで使用していた書斎を再現展示しています。書棚にある書籍は、吉村が生前に使っていたものをほぼそのままの配置で展示しています。



・映像コーナー

荒川区では、平成25年度から4か年に分けて、津村節子氏や吉村と親交があった編集者、作家、取材先で出会った方々を対象にインタビューを行い、証言映像として記録してきました。また、令和元年度は、「吉村昭と俳句」をテーマに新たな証言映像を作成しました。このコーナーでは、証言映像のほか、作品や人柄を紹介した映像など、全11作品をご自由に視聴できます。

	分類	映像タイトル	時間
1	吉村昭とは	作家 吉村昭の生涯	3:02
2		人間の「生」を見つめて 短篇小説と長篇小説	3:18
3		人間の「生」を見つめて 吉村昭の随筆	2:49
4		吉村昭と津村節子	3:16
5	紹介映像	吉村昭とふるさと「あらかわ」	14:26
6	証言映像	奥深い歴史を紐解く～吉村昭と長崎～	14:54
7		北へ注がれる視線～吉村昭と北海道～	15:03
8		証言 作家 吉村昭	11:53
9		編集者が語る 吉村昭の作品世界	13:02
10		瀬戸内寂聴・津村節子 吉村昭を語る	17:07
11		貫きしことに悔いなし～吉村昭と俳句～	17:19

・吉村昭著作閲覧コーナー

このコーナーでは、吉村の著作や当館の刊行物を閲覧できます。なお、図書の貸出は、3階「吉村昭著作・関連図書コーナー」をご利用ください。

おしどり文学館協定締結一周年記念事業

吉村昭記念文学館は、福井県ふるさと文学館と平成29年11月5日に、「おしどり文学館協定」を締結しました。作家夫婦に関する文学館同士の連携協定としては全国で初めてのものとなります。締結2周年を記念し、令和元年度は両館において合同展示及び講演会を開催しました。

・出久根達郎氏講演会「吉村・津村文学の魅力」(令和元年11月24日)

日本文藝家協会理事長で小説家の出久根達郎氏をお招きし、吉村・津村両氏の作品の魅力についてユーモアを交えつつお話しいただきました。

企画展

・吉村昭「海も暮れきる」- 俳人、尾崎放哉を見つめて - (令和元年10月13日～12月18日)

俳人、尾崎放哉が小豆島で過ごした最晩年の8か月に焦点を当て、その生と死を描いた長篇小説『海も暮れきる』を取り上げ、その作品世界を紹介しました。

吉村が書いた日記帳や自筆原稿等のほか、吉村が津村節子氏や親しい編集者、画家とともに28年間続けた句会「石の会」(のち「狐火の会」)に関する資料を紹介しました。

・橋爪功氏朗読会「海も暮れきる」とトーク(令和元年10月14日)

俳優の橋爪功氏をお招きし、第一部では、ドラマ「海も暮れきる～小豆島の放哉～」(昭和61年 NHK)の出演にまつわるエピソードや吉村氏との思い出等についてお話しいただき、第二部では「海も暮れきる」の朗読をしていただきました。

スタンプラリー

秋の特別企画として、令和元年9月1日から10月31日の期間、吉村昭記念文学館・荒川ふるさと文化館・日暮里図書館の3館合同で秋の文学・歴史巡りスタンプラリーを行いました。

トピック展

「担当学芸員一押し」として、常設展示で紹介していない資料を、より掘り下げたテーマにより紹介しました。

- ・第4回「吉村昭と俳句」(平成31年3月23日～令和元年6月19日)
- ・第5回「吉村昭と学習院時代」(令和元年6月21日～8月14日)
- ・第6回「動物へのまなざし」(令和元年8月16日～10月16日)
- ・第7回「吉村昭が描いた福井「雪の花」 笠原良策と天然痘」(令和元年10月18日～12月18日)
- ・第8回「吉村昭の取材力」(令和元年12月20日～令和2年年2月19日)
- ・第9回「全国文学館協議会共同展示 吉村昭と震災小説『三陸海岸大津波』と『関東大震災』を中心に」(令和2年2月21日～) 令和2年2月29日以降、臨時休館

自筆原稿紹介コーナー展示

常設展示室3階の自筆原稿紹介コーナーで、吉村・津村両氏の自筆原稿等を紹介しました。

- ・津村自筆原稿「三陸の海」(平成31年2月22日～令和元年5月15日)
- ・吉村自筆原稿「暁の旅人」(令和元年5月17日～7月17日)
- ・津村自筆原稿「遺作について」(令和元年7月19日～9月18日)
- ・吉村自筆原稿「戦艦武蔵」(令和元年9月20日～11月20日)
- ・吉村自筆原稿「ポーツマスの旗」(令和元年11月22日～令和2年1月15日)
- ・吉村自筆原稿「破獄」(令和2年1月17日～) 令和2年2月29日以降、臨時休館

特集コーナー

- ・自然災害と人間の営み「三陸海岸大津波」と「関東大震災」

自然災害をテーマにした吉村の代表的な作品「三陸海岸大津波」(原題「海の壁」)と「関東大震災」を紹介しています。これらの作品は、丹念な証言収集を経て著されており、その調査過程を自筆ノートやメモとともにたどります。

また、全国文学館協議会の第8回(2019年度)共同展示「3.11文学館からのメッセージ」に参加(令和2年2月21日～令和2年2月29日以降、臨時休館)し、特集コーナーにおいては、「三陸海岸大津波」の執筆にあたり実地調査を行った田野畑に関する吉村の旧蔵資料や、東日本大震災後、村の状況を案じて、執筆に取り組んだ津村節子氏の資料を紹介しました。

常設展示解説

- ・吉村昭記念文学館学芸員による常設展示の解説を行いました。

(平成31年5月4日、令和元年6月5日、7月6日、8月7日、9月7日、10月2日、11月2日、12月4日、令和2年1月11日、2月5日)

刊行物作成

- ・令和元年度企画展 吉村昭「海も暮れきる」 俳人、尾崎放哉を見つめて 解説パンフレット
- ・吉村昭記念文学館ニュース「万年筆の旅」Vol.13(令和元年10月)
- ・吉村昭記念文学館ニュース「万年筆の旅」Vol.14(令和2年3月)

吉村昭記念文学館友の会

荒川区では、「吉村昭記念文学館」の情報を全国に広く発信していくとともに、この文学館が、全国の皆様から吉村文学の真髄に触れることのできる場として親しまれ、地域文化の醸成に貢献する施設となるようご支援いただくことを目的として、「吉村昭記念文学館友の会」を設立し、会員を募集しています。

会員期間は、毎年度更新制とし、年度の末日(3月31日)までが会員期間となります。ただし、個人会員(3年)は入会日の2年後の年度末までとなります。

年会費 個人会員(1年) 1,000円 個人会員(3年) 2,500円 法人会員 3,000円
賛助会員 1口2,000円より

賛助会員は、友の会の趣旨に賛同し、寄附により活動を支援していただける個人・法人の方を対象。
賛助会費は、文学館の運営費として活用いたします。

吉村昭記念文学館友の会会員数 (令和2年3月31日現在)

	個人会員・法人会員	賛助会員	合計
会員数	326	71	397

吉村昭記念文学館友の会設立趣意書

荒川区出身の作家・吉村昭氏は、徹底した取材と情感を抑えた文体による作品を数多く執筆し、「戦艦武蔵」や「三陸海岸大津波」などの記録文学、そして、「ポーツマスの旗」や「彰義隊」などの歴史文学の分野で我が国の文壇に確固たる地位を築きました。

吉村氏は、多感な時期を過ごした“ふるさと”である荒川区に対する強い思いを持ち続け、随筆や小説にその思いを度々記しています。

荒川区では、吉村氏の功績を後世に伝え、吉村文学を通して真実を見極める眼差しを学び、より多くの方々が文学に親しむとともに、荒川区を知り、郷土愛を育める場として、(仮称)吉村昭記念文学館の検討を重ねておりました。

この度、この文学館の設置目的を十分に満たし、さらに、図書館のような施設との併設を強く望んでおられた吉村氏の御遺志を尊重し、荒川二丁目に整備する複合施設に、平成29年春、文学館を開設することとなりました。

この施設は、全ての世代が活用できる図書館と、未来を託す子どもたちの施設と文学館が融合することにより、これまでの文学館の事業だけでなく、新しい事業の展開を目指しています。

私たちは、この文学館が全国の皆様から吉村文学の真髄に触れることのできる場として親しまれ、地域の文化の醸成に貢献する施設となることを支援するため、「吉村昭記念文学館友の会」を設立します。

平成27年 3月 7日

発 起 人

西川 太一郎
(特別区長会会長・荒川区長)

瀬戸内 寂聴
(作 家)

山崎 穎
(跡見学園理事長)

逢坂 剛
(作 家)

エ 地域における読書環境の拡充

図書サービスステーション

近くに図書館が無く、図書館サービスが十分行き届きにくいと思われる地域でのサービスを充実するため、現在、2箇所の図書サービスステーションを設置しています。

図書サービスステーションでは、区立図書館に所蔵しているすべての図書・雑誌・CD等の資料を借りたり、返したりすることができます。開館時間は他の地域館と同じく、火曜日～金曜日は9時30分から19時30分まで、土曜日・日曜・祝日は9時30分から17時までです。休館日は、月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日以降の平日)、年末年始、月1回の館内整理日です。

汐入図書サービスステーションは、南千住図書館の分室として、平成19年9月8日にべるぽーと汐入東館内に開設しました。この施設は、子育て世代を中心に人口が急増している汐入地域に位置し、利用者数が非常に多いことから、平成22年12月18日にフロアを拡張するとともに、蔵書の追加を行いました。さらに、拡張したフロア部分には「柳田邦男さんおすすめ絵本コーナー」を設置しました。また、同日付けで、荒川区社会福祉協議会が運営する「汐入おもちゃ図書館子育て交流サロン」が隣接して開設されました。

また、平成25年10月1日には、書架を増設し、文庫本や実用書、育児書などを中心に2,500冊程度蔵書を増やし、座席も9席に増えました。

冠新道図書サービスステーションは、日暮里図書館の分室として、平成21年11月14日に冠新道商興会の一角に開設しました。

区では荒川区子ども読書活動推進計画(第三次)における施策の柱の一つとして「読書活動を地域の活性化につなげるため、地域の担い手の育成と読書環境づくりを推進する」ことを掲げ、「地域における読書環境の拡充」を重点事業とし、今後も、地域図書館と図書サービスステーションのあり方について検討していきます。

平成30年度及び令和元年度 図書サービスステーション利用状況

		合計実績		一日当たり実績	
		平成30年度	令和元年度	平成30年度	令和元年度
汐入	登録者数(人)	5,400	4,341	18	15
	入館者数(人)	153,970	148,029	518	505
	貸出利用者数(人)	57,255	55,275	193	189
	個人貸出点数(点)	172,565	169,035	581	577
	図書蔵書冊数(冊)	14,066	13,853		
冠新道	登録者数(人)	2,709	2,189	9	7
	入館者数(人)	61,917	59,070	208	201
	貸出利用者数(人)	31,496	30,168	106	103
	個人貸出点数(点)	101,014	99,296	339	338
	図書蔵書冊数(冊)	10,902	11,115		

あらかわ街なか図書館

荒川区では、平成30年5月27日、「読書を愛するまち・あらかわ」宣言を行い、「本が身近にあるまちづくり」を積極的に進めています。

「あらかわ街なか図書館」は、区や民間の施設に本棚と書籍を設置し、区民の誰もが、いつでも、身近に本に触れられる場を提供するものです。

平成30年6月から、荒川区役所、生涯学習センター等の区施設や、病院、飲食店等の民間施設に設置を進め、あわせて37か所(令和2年3月末現在)に設置しています。



荒川区役所国保年金課